



彦根市議会

(株)トランスワードが後援名義を無断使用

彦根市の嚴重抗議で謝罪

9月13日の彦根市議会において、彦根市原町に場外舟券車券売場建設を計画している(株)トランスワードが彦根市などの後援名義を無断で使用していたことが確認されました。

獅山向洋市長は成宮祐二議員の質問に対し「彦根市が後援した事実はなく、(株)トランスワードに嚴重に抗議した」これに対し(株)トランスワードは「申し訳なかったと謝罪した」との事実経過を明らかにしました。

(株)トランスワードが彦根市などの後援名義を無断使用していた事実が市議会などの公式の場で確認されたのはこれが初めてです。

後援名義無断使用事件とは

(株)トランスワードの後援名義無断使用事件とは、同社がホームページに場外舟券車券売場などの建設計画を彦根市などの「後援を得て開発している」と掲載していました、彦根観光協会の抗議をうけ削除したというものです。

この掲載が彦根市長選挙の期間中を含む3月頃から4月下旬にかけて長期間にわたって続けられていたことから、政治的にも重大視されていました。

ホームページの掲載内容は下記のようなものです。

滋賀県、大津市に

彦根進出断念の要請を！



経済産業省は、競輪の場外券売場の設置許可に際し、地元市長の同意を

「許可の要件とはしていない」との見解を出しています。大分県日田市では市長を先頭に市民挙げて反対していましたが、設置を許可しました。

従って、競輪の場外券売場建設を阻止するには、大津市などの競輪を主催する自治体に参加を断念させるしかありません。

こうした事情から、9月市議会において成宮議員は獅山市長に対し「大津市や県に対し『市長として反対している、来て貰っては困る』と言われたの

か、言う気があるのかどうか」と質しました。

これに対し獅山市長は「首長同士として既に私がどのような公約を掲げて当選したかという事は十分認識しておられる。県の担当の方に『もう現在ではモーターボートの事業そのものが斜陽産業に入っておりますから県も撤退されては如何ですか』と話したことはある。ただ単に『反対している、来て貰っては困る』と明確に申し上げると、ややこしい関係になるおそれがある」と答弁し、大津市や県の良識ある態度に期待する姿勢を示しました。

名神彦根IC近くで計画中の「彦根プロジェクト」は、トランスワードの新しいライフスタイルのプレゼンテーションとなるだろう。

温泉を活用した本格的なスパリゾートを地元住民の方々と共に、彦根市、彦根市議会、彦根商工会議所、彦根商店街連盟、彦根観光協会などの後援を得て、2007年開業を目標に開発している。